



キリスト教科学さきがけ, July 2011

地震から守られ、激しい腰痛から癒される

Protected from earthquake and healed of severe back pain

2011年3月11日、最上階にある私のアパートに入ろうと、ちょうど鍵穴に鍵を差し込もうとしたとき、下の階から大きな叫びが聞こえてきました。そして、建物が激しく揺れていることに気がつきました。私は囲いのある戸口に立ったまま、廊下の壁にもたれて足をふんばっていました。心臓が激しく鼓動していましたが、私は、「**神**がすべての場所にいる。**神**がすべての場所にいる」と、祈り続けました。揺れはなかなか止みそうもありませんでした。下の階から女性の悲鳴が聞こえたので、階段の手すりから体を乗り出して、日本語で「大丈夫。何もかも、すべて大丈夫、」と大声で言いました。悲鳴は止みました。その後、横揺れが続きましたが、間もなく止みました。日本に住んで18年になりますが、こんな激しい地震は始めてでした。揺れが止んで、私は完全に冷静を取り戻し、平安を感じました。皆が無事であることを確認するため、階段を降り、そして必要に応じて励ましの言葉をかけました。

私たちが住んでいる周辺では被害は無く、守られていると感じましたが、私はテレビが映し出す被害の甚大さに圧倒されました。再び私は「**神**がすべての場所にいる」と祈り、破壊の跡を目前にしても、**神**の愛は私たち皆と共にあるのだと心の中で唱え続けていました。

Author's Name / Gil Bird

他の日本語記事については、次をご覧ください：<http://www.christian-science-sakigake.com>

© 2011 The Christian Science Publishing Society (CSPS)
この記事は、100部までプリントアウトして、非営利として実費で提供することができます。この記事を手紙（email）で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事を手紙に転載する許可を得るには、copyright@csp.com宛に、メールをお送りください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。

東日本大震災のあと数日というもの、道行く人々には呆然とした表情が見られましたが、「私たちは皆で一致協力して乗り越えられる」という力強さが感じられました。この期間、私はまた、自分が今まで日本で経験したことが無いほどの暖かい笑顔や、心からの「ありがとう」という正直な感謝の言葉に出会いました。このように愛がどこにおいても、またあらゆる人によって反映されていることを目撃したとき、私は、メリー・ペーカー・エディが「主の祈り」に与えている霊的解釈のなかの「そして、愛は愛に反映されています」（『科学と健康』、p.17）という言葉の意味を、より深く実感しました。私自身もその愛に包まれていることを感じていました。そしてまた、世界の人々が日本のために祈ってくれていること、そして、その祈りが私たちに励ましと癒しをもたらしてくれていることを実感していました。

このように沢山の善を目の当たりにし、実際に経験していたので、私は、間違った情報が海外に届き、世界の人々の間に流されていることに対して心が痛み、怒りを覚えていました。私は自分のメールのリストに載っている人々に、自分の周りで起こっている善い事柄を長いメールにして、知らせるようになりました。私は「真実を知らせる」草の根運動を立ち上げていたのです。しかし、それは大変に時間のかかる、また労力のいる仕事でした。私はいつしか激しい腰痛に苦しみ始めました。

3月20日、私は東京でキリスト教科学の「天使の声に耳をかたむける：愛と癒しのメッセージ」という講演に出席しました。この講演で、多くのインスピレーションと慰めを与えられ、私は講演のあいだ中、また、引き続き催された集会においても、心地よく座って

Author's Name / Gil Bird

いることができました。しかし、家に帰った途端、痛みは以前より強くなって戻ってきました。翌日、私は、体力を使い、体を自由に動かす必要がある重要な仕事をするようになっていました。助けを求めて、**キリスト教科学**の実践士に電話すると、彼女は私が自由であることを断言し、私のために祈ってくれると親切に言ってくれました。その電話のすぐ後で、その月曜日の仕事がキャンセルになり、次の金曜日に変更になったとの電話を受けました。私はまだ痛みを感じていたので、ほっとしました。この良い知らせを伝えるため実践士に連絡したところ、彼女は、「委ねることです。**神**に仕事を委ねるという意味で、委ねるということは、とても重要な概念です」と言われました。その瞬間、私は、自分が**神**の仕事に就こうとしてることに気がつきました。日本で起こっていることの「真実を知らせる」必要がある、という非常に強い責任感を覚え、大変な負担を、私は誤って自分に課していたのです。私は、自分で真実を知らせる必要はなかったのです。**キリスト教科学**の勉強を通して、私は、**真理**、つまり**神**は、私たち一人一人に常に話しかけていることを学んでいました。このことがはっきり分かった瞬間、私は、即座に癒されました。それ以来、腰痛に苦しむことはありません。癒しは一瞬にして起こり、恒久のものです。息子の助けと励ましで、私はブログを始めましたが、それはただ書くことの喜びと、地震の余波に関連して私が得ている良い経験を他の人と分か合うためのものです。今や、私は、**神**がもたらす良いことと、その結果である癒しのみを、目撃できることを理解しています。

日本、横浜

ギル・バード

Gil Bird

Author's Name / Gil Bird